

平成 27 年度 第 7 回 園芸研究所 主要課題現地検討会（トマト）の開催

3月3日に農業総合センターにおいて、トマトに関する主要課題現地検討会を開催しました。当日は、生産者 52 名、JA 関係者 13 名、県関係者 28 名の計 93 名の出席があり、トマトにおける高軒高ハウス等を活用した増収技術についての研究状況について紹介するとともに、高軒高ハウスでの栽培状況を実際に見て頂き、検討を行いました。高軒高ハウスを活用した栽培技術については生産者の関心が非常に高く、今後のトマトに関わる施策や試験研究・普及の課題解決に向けた、有意義な検討会となりました。

1 試験研究の取り組み・進捗状況の紹介

- ・トマトの飛躍的な増収を達成するために取り組んでいる研究課題「長期どりトマトの高軒高ハウス・炭酸ガス施用等を活用した先進的増収技術の開発」について、研究内容や進捗状況を紹介しました。
- ・トマト産地で脅威となっている黄化葉巻病の対策として、ハイワイヤー誘引での収量と品質に優れる有望な耐病性品種の試食による食味評価を行いました。

2 ほ場検討

- ・光合成産物の果実への転流を促進させると言われるオランダ式温度管理と従来の日本式温度管理を行っている高軒高ハウスを比較しながら草勢や着果・肥大状況について確認し、意見交換を行いました。
- ・初期茎数の違いが群落内への光の通り具合や生育・果実肥大に及ぼす影響について確認し、意見交換を行いました。
- ・換気中の炭酸ガス施用方法として有効なポリダクトによる局所施用法について施用穴の大きさや間隔について確認し、意見交換を行いました。
- ・ハイワイヤー誘引における 5 品種の黄化葉巻病耐病性品種の生育、着果・肥大状況、外観品質について慣行品種との比較をし、意見交換を行いました。

3 総合討議

議題として高軒高ハウス、温度管理、炭酸ガス施用、整枝管理、品種を取り上げ、意見交換を行いました。参加者からは「高軒高ハウスの利点について実感することができた」、「環境制御についてもっと詳しく勉強したい」、「炭酸ガス施用の経営的評価をお願いしたい」などの感想や要望が寄せられました。



トマトの研究状況紹介の様子



高軒高ハウスでの現地検討の様子